

フィッシュロックバンド“漁港” 森田釣竿船長 神奈川学園でマグロ特別授業

9月1日（水）、フィッシュロックバンド“漁港”は横浜の神奈川学園中学校の要請で、ユニークなマグロ特別授業を行いました。

2年D組の女子中学生の皆さんは、メモを取りながら船長の熱いマグロトークに熱心に耳を傾け、またマグロヘッドの解体を食い入るような眼差しで見つめ、マグロと真剣に向き合ってくれました。

授業の様子は別添をご覧ください。

食育の一環として、森田船長率いる“漁港”からマグロや魚の話を聞きたい、マグロの頭の解体を子供たちに見せて欲しい、という学校関係者の方がいらっしゃれば、OPRTまでご連絡下さい。（但し、平日午後、都内近郊に限ります。）

（問合せ先）

（社）責任あるまぐろ漁業推進機構

事務局長：田端 事業部長：人見

TEL：03-3568-6388

FAX：03-3568-6389

“漁港”マグロ特別授業レポート

横浜市にある神奈川学園中学校。

2年D組が文化祭の研究テーマとして「マグロ」を取り上げることにした時に、以前に『漁港』のライブを見たことのある青木先生が2年D組の担任である田村先生に、「マグロと食育なら『漁港』が良いのでは」とアドバイス。

興味を抱いた田村先生が、タイミングよく漁港のステージを観る機会があり「現場の人の生の声として届けられる『漁港』は生徒にとって最高の食育！」と感動し、今回の訪問に至りました。

当日は、まず船長が自分の生い立ちをなぞりながら、漁業に携わるということ、魚屋という商売についてなどについて語りました。

お金を払えば買えるから、魚が食べられるのではない。

自然の恵みとしての命、それに携わる多くの人たちがいて初めて、魚を食べられる。

回転寿司の回っている皿の小さな刺身1つ1つにドクドク脈打つ心臓が乗っていると考えてみる。

気持ち悪いと思うかもしれない。でも命を頂くということはそういうこと。

聞き入る生徒たちからは「そう言われてみれば、そういうことだね」というざわめきも聞こえました。

漁港を召致してくれた先生は回転寿司の件が一番ハッとさせられた、と言っていました。

その後、ケープタウンで水揚げされた本マグロの頭を解体。

初めて生で見るマグロの頭に生徒達も身を乗り出し、興味津々。

それを捌いていく船長の手際のよさに釘付けになっている様子でした。

身だけでなく、頭から尾っぽの先まで食べられることを目の当たりにした生徒たちに、頭肉部分の試食がふるまわれ、その美味しさにみんな目を輝かせていました。

その後の質疑応答でも「マグロ丸々1匹捌くのに、どのくらいの時間がかかりますか？」「私達でもマグロの頭は買えるのですか？買うといくらくらいですか？」など、食に直結した様々な質問がぶつけられ、熱心にメモを取る生徒も多く見受けられました。

先生の話によると、教室へ戻ってからも帰宅する生徒はほとんどなく、たった今、自分自身で見て感じたその驚きと興奮をそのまま生かすべく、文化祭発表の準備に取り掛かっていたそうです。

「特別授業」を終えた『漁港』メンバーたちも、

家に帰って「お母さん夕飯はマグロにして」って言う子が1人でもいてくれると嬉しいね、

今日のマグロをきっかけに魚に興味を持ってくれる子が1人でも増えると嬉しいね、

と顔を綻ばせながら語り合っていました。